

令和5年度第2回舞鶴市子ども・若者支援会議 議事録（概要）

日時：令和5年8月29日（火）

午後1時30分～午後3時30分

場所：舞鶴市中総合会館 4階ホール

1 出席者・欠席者：別添、委員名簿のとおり
事務局：舞鶴市健康・子ども部

2 議事等

(1) 報告事項

- ① 子ども・子育てに係る令和4年度事業実績について
- ② その他

(2) 意見交流・提案

- (3) その他
- (4) 閉会

【質疑・意見等】

(1) 報告事項

①子ども・子育てに係る令和4年度事業実績について

資料に基づき、事務局より説明

②その他 市立中保育所の整備方針について

資料に基づき、事務局より説明

(2) 意見交流・提案

今後の子ども支援施策のあり方について

(福本委員)

- ・京都府北部及び舞鶴市の人口減少。
- ・舞鶴自治連・区長連協議会では、50周年記念として、つどいを開催。記念講演のテーマは「楽しさとおせっかい」。高校生の戻り数は、1,000人あたりを割合として、舞鶴市は15%、福知山は68%、綾部は25%。
- ・舞鶴市のここ20年間の出生率は半減。戻り数が少なく、出生数も減少し、必然的に人口減少となり、自治会の中で言えば世帯数の減少、単身世帯の増加、そして地域のリーダーがいなくなっていくことに跳ね返っているのではないか。いかにして、若者が舞鶴に戻ってきたいと思わせる施策が必要であり、それには地域とのつながりや地域の良さを高校生などに知ってもらう機会も大事である。

(保田委員)

- ・雇用の視点が大事。
- ・子どもたちが帰ってくるには働く場がある。働き先がしっかりしているか。魅力ある地域づくりが必要。

(奥本委員)

- ・舞鶴には大学生がおらず、周りにモデルとなる若者がいない。舞鶴にも仕事があることを知ってほしい。授業で企業説明などの、しかけ（PRなど）を行っている。
- ・高校生にとって身近な大人は先生か保護者であるが、保護者の中には「舞鶴には仕事が少ない」と思っている方もいる。保護者にもアプローチを行っていかれたらと思う。

(小谷委員)

- ・労働力と雇用の視点から、跡継ぎ、人材不足が問題。
- ・人手不足で現在副業・兼業が認められてきている。福祉や子育ての分野で副業・兼業を認めて行くことができれば、担い手不足が少しでも解消されるのではないか。
- ・退職後の公務員や専門知識を持った方を活用するなどの舞鶴市オリジナルの仕組みを作ってはどうか。

(西川委員)

- ・舞鶴に戻ってくるためには何か要素が必要。今春、舞鶴で音楽フェスを開催し大いに盛り上がった。昔からある伝統的な行事も、参加者がいなくなったからやらない、ではなく補助をしてでもPRし続けてほしい。

(武田委員)

- ・今年度、自治会の町内会長をしている。実際、その役割を地域で担ってみると見えてくるものもある。
- ・今夏、地藏盆を実施したが、やはり高齢の方と若い世代の方では温度差がある。若い世代の協力がもう少しあれば、高齢者と子どもとが一体となり、地域としてもっと活性化していくのではないか。
- ・中学生では職業体験などがあるが、就職という選択も迫られる高校生にまで、そういった体験が増えていけば良い。

(畠中委員)

- ・8月に地域の盆踊り大会が4年ぶりに開催された。大変盛り上がり、舞鶴を離れた子もその日のために戻ってきてくれた。地域行事の魅力でもあり、やはりイベントは大切。
- ・地域全体でもやはりみんなで盛り上げなければいけないが、いきなり大きなことは難しい。まずは町内会長同士などで各地域のイベント情報を広めていくなど、少しずつ「こういうことをしよう」と話し合いをするだけでも効果があるのではないか。

(池内委員)

- ・保育園の子どもたちが公園で遊んでいる声に「うるさい」という人もいる。その一方で、こうして子どもの支援について代表者が集まって話をしている。これからの次世代を担う子どもたちに、舞鶴市はどのような支援施策を検討いただけるのか。
- ・いわゆる「地域のおせっかいおじいちゃんおばあちゃん」が必要。それが地域力でもある。

・様々な支援があるが、やはり今各家庭の中で、保護者がどう子どもと向き合っているかということが一番大事と感じる。

(楠委員)

・一つ目は「つながる」ことの大切さ。保育園の卒園生が職員として戻ってきてくれることもあり、良いところだけを見ればずっとつながるが、なかなかそうはならないので何か支援が必要。アイデアはたくさんあるはず。そのアイデアを消すことなくつなげていくことが、住みよく最後帰ってきて楽しいと思えるまちになるきっかけになればと思う。

・二つ目は「支援」について。支援に関しては、費用、人材、場所も必要。準備をして支援がいつでもできるという体制を整えることと、結果その施設や事業が使われて利用人数が増えることは、別問題。支援を厚くする場合は、利用者が最初は少なくとも、その体制が維持できるような準備をしないと本当の意味で支援にはならないのではないかと。

・車がない人のためのまちづくり。車のない中高生や免許がない方でも連携ができるような、例えば駅周辺の開発をすすめる、人々が集まろうと思えば集まれる街になっていくのが大事ではないかと。

(井上委員)

・教育活動の場が戻ってきている。ただ、コロナ禍の3年間で高学年になった子どもたちには、影響が大きかったと感じる。

・さまざまな現場で人材が不足している。学習支援員や学童支援員など。講師や非常勤の方に声をかけるがなかなか見つからないのが現状。

・皆で子どもたちを育てる、支える楽しさを伝えることが一番。舞鶴に戻って活躍してくれる子どもたちを育てるために地域の力も借りながら様々な事業に取り組んでいけたらと思う。

(谷口委員)

・地域社会総がかりで子育てが必要。誰がメインで誰がサポートをするか、支援の切り口を揃える。

・社会教育委員会会議でのアンケートで、舞鶴在住の30代から50代の世代にアンケートを実施。そのデータを活用していければ、地域の行事や伝統をつないでいくだけではなく、人材もつなげていくことができるのではないかと。

・産後や、今後もう1人産みたいと思うお母さんたちが周りを頼れない。何かつながる手段が必要。

(永木委員) 欠席のため、事前提出の意見を読み上げ

・多様な家庭や課題をもつ世帯がある。

・「予防」が大事な視点。何かあってから動くのではなく、何かあるまでに対策がとれる体制が必要。

・様々なサービスや事業を提示するだけでなく、対象の本人やその家族とともに支援計画をたて、家庭の状況や課題が発生した場面や、子どもの成長に応じて、真に必要なサービスなどが利用できるよう声かけが出来る仕組みが作られることを求める。

・そこには、信頼関係が必要であり、寄り添い型で支援をお願いしたい。

(桑原会長)

- ・各種事業について、ふりかえり、検証、検討をお願いします。
- ・単体で出来る役割もあると思うが、必要に応じて連携していくことも必要。
- ・担い手不足が課題にも出ているが、1人に負担をかけない、それぞれの役割でお互い情報交換しながら携わっていく。お互いの役割を知ることが大切。

(3)その他

(事務局)

次回、第3回子ども・若者支援会議は11月1日(水)の13時30分から、舞鶴市役所別館6階大会議室で開催予定。

(4)閉会